

Sakai CLE翻訳に関連する課題

2013.8.13 常盤 作成

課題ID	1st Ja Sakai Unconference (2012.8)			2nd Ja Sakai Unconference (2013.8)			
	翻訳にあたっての課題点	方針	備考	Status (実施もしくは変化があるもの)	済	プロジェクト	方針
	1. 範囲						
1	・翻訳範囲 - プロダクト レベル (Sakai/CLE 2.9.x?, Sakai/OAE)	Sakai CLE 2.9				○	
2	・翻訳範囲 - Sakai CLE レベル (Contrib (SCORM, Assignment2, Gradebook2, Dashboardなど), HELP/XMLファイル)	corelに限定する。京大は英語のままリリース。XMLはbentenでは不可。法政大学で保有しているtmxをhelpに適用してみる。					
3	・適用分野(授業, 研修)に応じたバリエーション。例としてInstructorの翻訳の場合、研修では講師、授業では教員となる。	授業支援を想定する。				○	
4	・用語の切り分け (Sakai固有のものLMS/CMSなどの一般的な用語)	先送り。Moodle Groupとの連携などを検討する。		大学用OSSにおいて一貫した翻訳を行う。		○	
	2. スケジュール						
5	・カンファレンスなどのマイルストーンを考慮したマスタースケジュール	2012-10 or 11 Sakai I10n_Ja Input 2012-12 Sakai CLE 2.9.0 Release					
	3. ツール						
6	・翻訳ツールの選定 (benten もしくは トランスレーションメモリー互換ツール)	bentenおよび互換ツールとする。		2013年度はTransifexを試用する。	済	○	
7	・分担作業成果物のMerge	ミニマムでもxliffファイル単位とする。著作権を考慮する。定期的(月例など)に打ち合わせを行いワークロードバランスなどの調整をする。		SaaS CloudベースのTransifexによってMergeは不要となる。	済	○	
	4. 体制						
8	・翻訳体制	任意のブラウザを使い画面上での確認を翻訳者が行う。ペアリングして相互レビュー。QAにて最終確認。		翻訳->承認のWork Flow, Webブラウザ表示確認用Sakai CLEサイトなど確立されていない。		○	
9	・分担	Lesson Builder					
10	・Ja Sakaiにおけるレビューア, 翻訳者等の役割	Ditto				○	
	5. プロセス						
11	・複数候補がある翻訳に対する確定方法。	複数候補があるとbenten上では黄色の背景がつく。idで指定する。Ja Sakai Webサイトにidごとの翻訳を記載しておく。	Site, Sectionなどの翻訳read, author, fromなどで複数候補がある。bentenに既存翻訳の適用があるが、今のところうまく動かない。	Transifexではマッチした%が多い順に複数候補が表示される。ただし、100%マッチした翻訳をそのまま採用することについては検討が必要である。		○	
12	・コーディネーション (プロジェクト管理)	Ditto					
13	・著作権 (CLA/CCLA), 翻訳権 調査・許諾	それぞれの組織でCLA/CCLAを締結する。					
	6. 成果物/報告						
14	・翻訳ツールのユーザガイド		bentenにて翻訳体験後、協議	Transifexについて暫定版を制作した。	済	○	
15	・用語集	Excel等で制作し、Web公開の際にシステムを検討する。	bentenにて翻訳体験後、協議	Transifexでは用語集管理機能が提供される。		○	
16	・翻訳ルール/ガイドライン。(句読点, 半角英数字 前後の空白, ですます/である調, 下さい/ください)	ですます調, 句読点(, .), 「」, “”, {} は半角。英数字前後は半角スペース。[0]などで日本語が入る可能性がある場合は、“[0]”とし、前後に半角スペースを入れる。英数字の前後は半角スペースを挿入する。	bentenにて翻訳体験後、協議。Ja Sakai CInfluenceにガイドラインの元となるメモを記録する。	Ja Saka Confluence に掲載した。 http://www.sakaiproject.jp/confluence5/x/mlAd	済	○	

Sakai CLE翻訳に関連する課題

2013.8.13 常盤 作成

課題ID	1st Ja Sakai Unconference (2012.8)			2nd Ja Sakai Unconference (2013.8)			
	翻訳にあたっての課題点	方針	備考	Status (実施もしくは変化があるもの)	済	プロジェクト	方針
17	・AXIES/OSS部会における成果報告.	2012-11 CLE研究会@九州大学 2012-12 AXIES@神戸 2013-3 情報処理学会論文投稿 2013-3 Ja Sakai Conf. 2013-6 Sakai Conference		2013-6 Sakai Conferenceにて成果を報告した.	済	○	
	7. 翻訳実施						
18	・誤訳を見つけた場合の課題管理方法. JaSakai JIRA or 本家JIRA	QA時にJa Sakai JIRAにて報告		Ja Sakaiにおける基盤はConfluence, JIRAを利用しているため, JIRAにて報告としたい. ただし, 無償で利用できるCommunity Licenseを申請する必要がある			
19	・大学ごとの用語の違いへの対応	.properties_ja_JP_[大学ID]などで対応する.		.properties_ja_JP_[大学ID] にて対応	済		
20	・逐語訳は避けたい(よろこ XXへ.)	QAおよびMonthly Meetingのなかで検討する.					
21	・モジュール間整合性, 文脈依存の候補選択基準	Ditto				○	
22	・翻訳ができない場合のプロセス. ソースコード変更を伴う場合.	Sakai JIRAを通じてパッチを提供する.					
23	・既訳でオリジナルが変更されている場合の対応.	Ditto				○	
24	・double byte圏で生じる特有の課題(double byteを考慮したメッセージなど)	ソースコードレベルでの変更とする.		Bug FIXをSakai JIRAに報告している.	済		
25	・イメージ内のテキスト翻訳.	WebDav, Lesson Builderに言語依存のイメージがある. Ja Sakaiにて日本語Sakai CLEのスクリーンショット					
	X. 翻訳関連以外の課題						
	・産学協同における役割分担. ビジネスをするうえでのbug対応.	検討を先送りする.					
	・コード修正が必要なbug対応. (複数大学Fundによる解決など)	検討を先送りする.					